

人事コンサルティング会社が
野外ジムを手がけた

理由

ワケ

AKARUKU WORKOUT TEAM



聞き手
中村優作

学生インターン
1997年生まれ。奈良県出身。
2022年7月より学生インターンとしてアカルクにジョイン。今回のアカルク筋トレ部ではトレーナーとしても参加している。

話し手
堀川歩

代表取締役社長
1990年生まれ。大阪府出身。
LGBTの方の総合サポート事業を個人で立ち上げる。その後、ユニバーサルデザインのコンサルティング会社で人事部長を務め株式会社アカルクを設立。

セクシュアリティも何も問わない

筋トレ部とは一体何でしょうか？

堀川：起業（年目の2020年）に、会社の部活制度として誕生したのが一番最初です。筋トレ初心者の人やガチムチボディを目指す人などが、プロのトレーナーの人に教えてもらいながら「明かへ楽しく自分らしい体づくりを応援したい」という趣旨のもと誕生しています。

中村：ではなぜ筋トレ部を始めようと思ったのでしょうか？

堀川：「トランスジェンダー」に言っても治療状況も様々な方がいて、体作りしたいと思ってでも戸籍の性が関係してジムには通えないという方や、治療費も金銭的にジムに通えない方がいました。そういう方も安心して「セクシュアリティに関係なく来てもらいたくて、誰もが無料で受けられる企画として誕生したのがきっかけになります。

中村：筋トレをする上で、大切にしていることはありますか？

堀川：「三つあります。

一目は大前提として怪我がなく安全に二目はセクシュアリティに関係なく、誰でも参加しやすいというコンセプトを非常に重視しています。無料の部活制度とは言え参加したい人がいては良くないので、セクシュアリティのハードルは下げたいと思います。

三目は、場所や時間に関係なく、自分のペースで参加してほしいことです。もともとコロナ禍でオンライン上のスタートとなり、場所や時間に関係なく、録画したのも見てもええようにしています。

中村：今回対面で開催すると、場所や人数が限られると思いました。この企画を対面でも意味、オンラインとは違う魅力はどう感じますか？

堀川：対面では一緒に空間を分かち合うことが

で「コミュニケーションが生まれれます。筋トレを通して、筋トレが好きなら健康に興味がある人達が集まる場所づくりが出来るのではと期待して、自分たちとしても対面で行いたいと考えていました。

中村：筋トレが苦手な人に今回の筋トレ部を楽しんでもらえるような工夫はありますか？

堀川：筋トレのコースの中に撮影スポットも用意して「ちょっと写真撮りたいな」という人にも楽しんでもらえるようにしました。一方で筋トレ自体に関しては、プロのトレーナーとそれこそ中村さんにも入ってもらい、トレーニングの仕方を教えてもらったり、今まで筋トレをしたことがなかった人にも、気兼ねなく参加してもらえるような内容にしました。

中村：筋トレ経験者・未経験者問わず、終わった後の笑顔がみなさん素敵ですね。写真撮影も楽しんでいます。

矢印を自分に向けたい

お客様に寄り添うアカルクの事業とは

中村：アカルクはトレーニングジムの会社です。

堀川：全然違いますね！笑。メインは人事コンサルティングで、LGBTQ+の人はもちろん、多様な人が動きやすい職場環境を作るお手伝いをしています。普段は研修や人事制度の整備性の多様性について気兼ねなく知ってもらいたい企画なんかもしています。



中村：企業向けの人事コンサルティング会社がなぜ「筋トレ」に出展したのでしょうか？

当日レポート

動員数が過去最多の2万人超となり、関西最大規模で行われた「RAINBOW SUMMER ONNEN」の記念大会をへき第一日

私たちは「アカルク筋トレ野外ジム」をテーマにしたときに、皆来てくれるのだろうか？と心配でした。現在、四宮のインターン生がいますが、皆はじめは半信半疑というのが正直な気持ちであって、は秘密です。

しかし、集客から帰って来て「いいわー」「いいわー」と声が出る量の賑わい！

「安心していてもいいの間で、次から次へと色んな方が来て下さりました。

基本、まず「いいわー」が聞こえる状態であり、トレーナーの中村としおりさんは休憩間がないというフル稼働！

お客様の中には、外国籍の方や障害のある方も来て下さり、語学力を活かしたりなことでそれぞれのアカルクメンバーが活躍しています。

最後の最後まで、お客様が来て下さり、開始から終りまで一番盛り上がりだっていたブースじゃないのかと思うほどの盛況ぶりでした。

約八十名の方が来て下さり、「いいわー」を無事終えられていきました！

「いいわー」が聞けるからLGBTQ+に関連したイベントに参加してないという方も多く、また新しい輪が広がっていくのを感じました。



【文】学生インターン 山本・依田



か？

堀川：大阪開催のレインボーフェスタで、地元関西を盛り上げたいという想いがありました。なぜ人事コンサルティング会社が筋トレをするのかに関して、多様な人が安心して動ける環境を作る上で、働く人自身も健康でないと制限がかかると思います。そこで筋トレ部のような部活制度を整備して意識啓発し、働く人側の健康もサポートできる会社でありたいと思いました。

中村：この企画はアカルクだけでなく、誰もが対象なのではないでしょうか？

堀川：そうですね！そもそも一緒に働く仲間もLGBTQ+の人だけと決めていたわけでもなく、誰もが自分の健康について関心があることを考えてもええななと思い実施しています。

中村：ではまた話を戻して、今の事業の魅力について教えてください。

堀川：それこそすべてが楽しいというところは自然なことです。でも一番は、自分たちが社会に対して変えたい進めたいことが直結して困っている人に繋がる。メンバーだったことが〇になること、メンバーが変わるという状況が、取り組んだことが全て反映されていく過程が、やりがいとしての面白さを感じていますね。

中村：会社の特徴は何ですか？



堀川：それこそ一言で表すのは「唯一無二の会社だ」と思っています。何の会社か、社外に説明するのは正直人事コンサルティング会社と説明するのは難しいのですが、目には見えないというところも多くの業務範囲が広いの下の力持ちな会社です。私たちがの場合は「社に寄り添いながら伴走し、社風やスピード感求めたい方向性に合わせて一緒に作り上げていきます。この部分は体系だったものはないので、唯一無二の特徴になっています。

中村：業務をより大切にしていてくれる考えはありますか？

堀川：矢印を自分に向けたいことを大事にしていきます。例えばお客様の場だった場合、会社としての方針が部署や個人により異なる中で、常に矢印のペクトルをお客様や社会に向けて伴走することを心がけています。ただ、矢印の方向性で炎上の可能性や違和感がある場合は、アカルクとして提案することもあります。一方社内に関しては、社内で発生を大きく分けたいませんが、責任の観点では分けたいものも、自分で考えて事業面・組織面から計画し、熱意があれば挑戦しても構いません。会社としてよりも、本人としてどうしていきたいか、そこでも互いペクトルがあっているかを大事にしています。

中村：今回インターン生が企画した対談記事ができましたね。

堀川：そうですね！

「社会に届けたらいい」ジェンダーのバランス

中村：堀川さんは「いいわー」を聞いていますが、面白くないところはないですか？

堀川：まず「いいわー」の面白くないところは、方言などの向かないところもたまにはあります。ただ「いいわー」はアカルクの理念にも「明かへ楽しく自分らしい体づくり」と書いていて、大事にしています。アカルクは人事コンサルティング会社だから研修や人事制度の提案をする訳ではなく、人事コンサルティング会社も「いいわー」を「いいわー」と伝えたいです。もちろん、土台も整えたというバランスが大事だと考えています。

中村：今回のアカルク筋トレ部は利益が発生してませんが、このようなイベント、そして事業を通して届きたい堀川さんの想いを聞きたいです。

堀川：まず、利益どころが大赤字です！笑

中村：ですよね…笑

堀川：アカルクの創設時から、企業である以上は事業で価値貢献して行くことを決めています。なので株式会社という非営利団体ではないの、と言われましたが、団体として継続するにはボランティアだけでは足りない難しさを感じていました。当事者に還元したい。こんな会社があったらいいんだ、と伝えたい。型にとらわれない会社で、事業の作り方の組織のあり方を日本社会に訴えたいという思い、創業しました。そしてアカルクが当事者向けに開催したイベントでは、利益は一切求めていません。むしろ回っているのがよく聞かれますが、そもそもイベントでは利益追求していません。きちんと企業様に価値提供をする時に、頂けるツールとサービス提供をしていくので、完全に棲み分けて自分たちの社会貢献をしています。

中村：企業様が当事者、両方本気で価値提供することが大切だと感じました。本日はありがとうございました。